

もの言う牧師のエッセー 第289話

「親切なホームレス」

5月22日の夜、英国マンチェスターのコンサート会場で自爆テロがあり22名が犠牲となった。コンサートに参加していた多くの若者や少女、その保護者らが逃げ惑う大混乱の中、2人のホームレス男性がとった親切な行動は世界を驚かせた。

小銭をめぐんでもらおうと会場の出入り口付近にいたクリス・パーカーさんは、爆発時の衝撃で床に叩きつけられた。起き上がるとすぐに救出に向かったが、そこには両足をなくして血を流す女の子や、頭と足にひどい傷を負った女性が。「彼女は60歳くらいで、私の腕の中で息を引き取った。家族と一緒に来たのだと言っていました。涙が出て止まらなかった」。少し離れた場所でスティーブ・ジョーンズさんは寝ていたが、彼もすぐさま現場に向かい子供たちに駆け寄った。「血まみれのたくさんの子供が泣き叫び、悲鳴をあげていました。子供たちの腕や顔には金属片が刺さっていたのでそれを抜いてあげました」。

彼は「ホームレスだからといって、人を思う心がないわけではない。私も人間なのです」と語る。2人には多くの寄付が集まり就職先や住居を用意する申し出もあるが、ジョーンズさんは「私は英雄ではない。誰もがすることをしただけです」と。いっぽうで彼は「寄付も称賛もありがたい。でも正直なところ、通りで私に会って、コーヒーを一杯ごちそうしてくれたら、それで十分なんです」とも。

イエスの有名なたとえ話、強盗に襲われ半殺しにされて道に捨て置かれた人を助けた「**親切なサマリヤ人 (The Good Samaritan)**」(ルカによる福音書10章)は、元を正せば「隣人を愛せ」というイエスのコメントに対し宗教家が「隣人とは誰のことか？」と質問したことから始まる。その答えは

「あるサマリヤ人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。」

同章33-34節。

通りがかった宗教家らは知らん顔をして通り過ぎたが、自分たちが日ごろ見下しているサマリヤ人による親切な行動は衝撃的であったに違いない。見知らぬ人や苦手な人を愛するのは英雄的能力を要するとつもなく難しいことに見えるかも知れない。しかし、イエスが言う隣人を愛する行為とは、身近にいる人に誰もが出来ることをすることから始まるのでなかろうか。そうすることで疑心暗鬼な世の中に風穴を開けることも出来る。イエスに救っていただいた者として、1杯のコーヒーを惜しまずに与える勇気を持ちたい。

2017-6-28



Joel Franco
@OfficialJoelF

[Follow](#)

HEROES: Two homeless men, Steve Jones and Chris Parker, helped save the lives of many in the Manchester bombing